

# 財務概況

## 経営環境

2020年3月期における日本経済は、消費税増税や米中貿易摩擦の長期化に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大による世界経済への影響など、先行きの不透明感が高まる状況となりました。

このような状況のなかでミウラグループは、技術・営業・メンテナンス

の三位一体活動による新しいサービスや省エネ製品の開発を進めるとともに、さらなる事業連携による提案の強化を行うことで、お客様の信頼に一層お応えできるよう、「トータルソリューション」の提案推進に取り組みました。

## 経営成績の状況

	2019年3月期(百万円)	2020年3月期(百万円)	前期比(%)
売上収益	138,880	<b>143,645</b>	<b>+3.4</b>
営業利益	16,682	<b>18,540</b>	<b>+11.1</b>
税引前当期利益	17,130	<b>18,756</b>	<b>+9.5</b>
親会社の所有者に帰属する当期利益	12,280	<b>13,746</b>	<b>+11.9</b>

- 2020年3月期の連結業績は増収増益となり、売上収益、各利益とも過去最高を更新しました。
- 売上収益は143,645百万円(前期比3.4%増)となりました。国内においては、堅調な設備投資に支えられ、主力の小型貫流ボイラや船用機器の売上が伸びたことに加え、メンテナンス事業も堅調に推移しました。海外においては、新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、省エネルギー・環境負荷低減を基本としたソリューション提案営業によりボイラ販売が好調に推移しました。また、メンテナンス事業も堅調に推移しました。
- 営業利益は、60周年全国縦断フェア費用や人件費が増加したものの、増収効果に支えられ、18,540百万円(前期比11.1%増)となりました。営業利益率は12.9%と、前期比で0.9%の増加となりました。税引前当期利益は18,756百万円(同9.5%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は13,746百万円(同11.9%増)となりました。

## セグメント別の損益状況

事業セグメント	売上収益			セグメント利益		
	2019年3月期(百万円)	2020年3月期(百万円)	前期比(%)	2019年3月期(百万円)	2020年3月期(百万円)	前期比(%)
国内						
機器販売事業	61,490	<b>64,345</b>	<b>+4.6</b>	4,899	<b>5,194</b>	<b>+6.0</b>
メンテナンス事業	31,562	<b>33,000</b>	<b>+4.6</b>	8,278	<b>9,414</b>	<b>+13.7</b>
ランドリー事業	20,005	<b>19,040</b>	<b>△4.8</b>	1,306	<b>1,073</b>	<b>△17.9</b>
海外						
機器販売事業	20,251	<b>20,717</b>	<b>+2.3</b>	1,651	<b>2,105</b>	<b>+27.5</b>
メンテナンス事業	5,503	<b>6,484</b>	<b>+17.8</b>	384	<b>784</b>	<b>+104.2</b>
その他および調整額	66	<b>56</b>	<b>△14.0</b>	163	<b>△31</b>	<b>—</b>
合計	138,880	<b>143,645</b>	<b>+3.4</b>	16,682	<b>18,540</b>	<b>+11.1</b>

### 国内機器販売事業

国内機器販売事業は、既存設備の維持・更新による需要に支えられ、主力の小型貫流ボイラの売上が堅調に推移しました。船用機器においても、バラスト水処理装置や船用補助ボイラなどの売上が堅調に推移しまし

た。この結果、当事業の売上収益は64,345百万円(前期比4.6%増)となりました。セグメント利益は、60周年全国縦断フェア費用やベースアップ・増員などにより人件費が増加しましたが、増収効果により5,194百万円(同6.0%増)となりました。

### 国内メンテナンス事業

国内メンテナンス事業は、ボイラ有償保守契約件数の増加や、各事業が連携した提案活動を実施したことが売上に貢献しました。この結果、当事業の売上収益は33,000百万円(前期比4.6%増)となりました。セグメント利益は、9,414百万円(同13.7%増)となりました。

### 国内ランドリー事業

国内ランドリー事業は、人手不足や人件費・物流費などのコスト上昇に伴い、設備全般の運用効率化を目指した省力化や自動化へのニーズは引き続き堅調に推移していますが、近年の訪日外国人の増加による需要が落ち着いたこともあり、大規模な投資が減少したことから低調に推移しました。この結果、当事業の売上収益は19,040百万円(同4.8%減)となりました。セグメント利益は、無形資産の償却負担もあり1,073百万円(同17.9%減)となりました。

### 海外機器販売事業

海外機器販売事業は、韓国と米州においてボイラ販売が堅調に推移しました。中国では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり低調に推移しました。この結果、当事業の売上収益は20,717百万円(前期比2.3%増)となりました。セグメント利益は2,105百万円(同27.5%増)となりました。

### 海外メンテナンス事業

海外メンテナンス事業は、中国での低NOx対応や各国での有償保守契約の積極的な取得により契約件数を伸ばしました。この結果、当事業の売上収益は6,484百万円(前期比17.8%増)となりました。セグメント利益は、784百万円(同104.2%増)となりました。

## 財政状態の状況

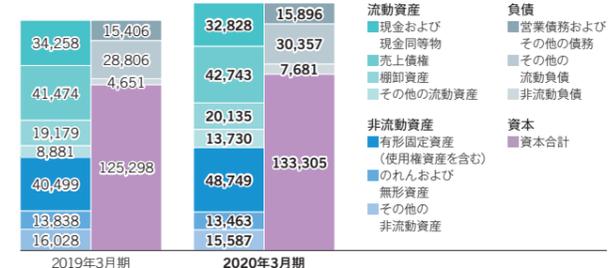
2020年3月期末の資産合計は、前期末に比べ13,079百万円増加し、187,241百万円となりました。流動資産は、主にその他の金融資産が増加したことにより、5,645百万円の増加となりました。非流動資産は、主にIFRS第16号「リース」の適用に伴う使用権資産の計上により、7,434百万円の増加となりました。

負債合計は、前期末に比べ5,071百万円増加し、53,935百万円となり

ました。主にIFRS第16号「リース」の適用に伴うリース負債の計上により、流動負債が2,041百万円の増加、非流動負債が3,030百万円の増加となりました。

資本合計は、主に利益剰余金が増加したことにより、前期末に比べ8,007百万円増加し、133,305百万円となりました。この結果、親会社所有者帰属持分比率は71.2%と、前期末に比べ0.7%の減少となりました。

### B/Sの推移



### 親会社所有者帰属持分比率の推移



## キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、前期比で収入が987百万円増加し、18,121百万円の収入となりました。これは主に、減価償却費および償却費の増加、ならびに契約負債の増加による収入が増加したためです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前期比で支出が7,748百万円増加し、10,300百万円の支出となりました。これは主に、投資の取得による支出が増加し、かつ投資の売却または償還による収入が減少したためです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前期比で支出が1,913百万円増加し、8,978百万円の支出となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出、およびリース負債の返済による支出が増加したためです。

以上により、2020年3月期末における現金および現金同等物は、前期末と比べ1,429百万円減少し、32,828百万円となりました。

### キャッシュ・フローの推移

